



一般会計補正予算 2億9,887万5,000円 を審議

平成27年
第2回定例会

6月9日から11日までの
会期で開催され、多岐に
わたり審議が行われ
ました。

桜川市立やまと幼稚園

一般議案に対する 議案審議

公共交通事業 610万2千円

問 桜川市地域公共交通網形成計画策定業務委託料として、予算が計上された。どのような内容の委託を考えているのか。バスとタクシーを組み合わせた交通網を考えているようだが、何かいい成案、実現可能な案の見通しを持っているのか。
答 現在は、デマンド交通も含めて、鉄道・タクシーのみの交通体系となっており、公共交通の総合的な取り組みが求められています。

企業誘致推進事業 1億2400万円

問 大和駅北地区の開発整備にかかる費用とのことである。今のところ1社が大規模商業施設の建設を検討中のようなが、開発整備には、これからさらにお金をかける計画なのか、これで終わりなのか。さらに他の企業を誘致できる見通しはどうか。
答 今回の補正は、長方から大和駅北地区までの約78ヘクタールの全体を見据えた幹線道路と、長方地区準工業地域全体を担う調整池の測量の設計費用です。今後、用地取得費と工事費が必要になり、工事費には約11億円を見込んでいます。今進出が見込まれているのは、大規模商業施設1社です。基盤整備が進むことにより、企業誘致が進むものと期待しています。
問 企業誘致推進費1億2400万円と、これから28

市内の公共交通を再検討し、利用しやすいシステムになるよう見直しを進めていきます。

年度予定される工事費11億円の財源、また今後開発が進み大規模商業施設が出店した場合の税収予想額は。

答 今後、やはり事業を精査して起債等の借入れで対処していきたいと思えます。また、今回計画している8ヘクタールの税収見込みですが、固定資産土地分510万円くらい、家屋分870万円くらいの増収が見込まれます。
問 78ヘクタール分の測量費4600万円と、道路等整備設計費7800万円について問う。
答 大和駅のすぐ北は、市立病院の候補地でもある。平成30年の区画整理事業開始予定と、同年10月の病院開院予定では、つじつまが合わないのでは。

答 両計画は直接リンクしていません。駅北直近が適地であれば、区画整理に先立ち病院を整備します。
問 同じ場所、片や買収片や売れるかわからない組合方式の区画整理事業。これでもとまるのか。
答 区画整理については、先入観を持たずに取り組ん

青木堰調査

問 老朽化調査後、改修する際の地元負担は。
答 大規模改修の場合で、1反歩1万9000円くらいになる予定です。

市立病院整備

問 桜川市立病院基本設計策定委託料2613万4000円の、建設費や土地解体費などの財源の内訳はいくらか。
答 詳細は未確定ですが、病院事業債75%、合併特別債25%充当を予定しています。

問 整備場所について、市の整備委員会は、現地建て替えには難があり、大和駅北地区が適地としている。県西病院での診察を継続しながら建て替えるのは、騒音・振動等の問題があり好ましくないとのこと。

答 これに対し、一部議員から中核病院との開院時期をずらし、中核病院が開院した後市立病院が完成するまでの間、中核病院にバスを走らせて県西病院の医療機能を中核病院に担っても

幼保一体化推進事業 3062万2千円

問 3月議会に提案された予算は、3069万8000円だったが、今回の補正予算はそれとほぼ同額の3062万2000円で、当初予算見積もりの倍額が必要となったわけである。こんな大きな変更を、質問もせずに通すことはできない。なぜこんな大きな変更が必要となったのか。
答 幼保一体化のため、やまと幼稚園に、やまと保育所の乳幼児が入ることにより、トイレの新設・調理室の新設・門扉のつけかえ・乳児室の新設・駐車場の整備など大きな変更が必要となったためです。当初見積もりが甘かったことは、陳謝します。

桃山小中一貫教育校 建設事業 2672万2千円

問 この予算は、真壁小学校の校舎の耐震性に問題があり、早期に建て直しが必要ということから出発したと考えている。学校を建て

でいきます。

問 大規模商業施設はともかく、ここへの病院建設に私は反対です。
答 しかし、もしここにしないのなら、10町歩もの田んぼなど埋めず、お金のからからない山際のところでやるべきでは。

また、道路・調整池の建設費を11億円としているが、これには10ヘクタールの水田買収費・立ち退き補償費は含まれていない。さらには水田の埋立費も必要。11億円ではとても済まないのでは。

答 11億円というのは設計がつくった話なので、設計が間違っていたら(もった)かかる。設計どおりならいけるという話です。

問 田んぼを埋め立てて水路を地中化し、その上に道路をつくるのも問題だが、県道との出会いのところは毎年冠水する問題もある。県道のかさ上げが必要と思うが、誰の費用で行うのか。
答 調査の上、県との協議も進めることになると思います。

直す場合、1校の建て替えでは国の補助は3分の1、2校を統合し1校にするには国の補助が2分の1と多くなる。また少子化の波が驚くほどの速さで進んでいるのも事実である。そこで、一番生徒数の多い真壁小学校と9番目の紫尾小学校の統合案ができてきて、ならば桃山中との一貫校へと話が進んできたと理解している。小学校を併設するにはさらに新しく借地をふやす必要があるのではないかと話を当初事務方から聞いて、これ以上、借地料をふやすのはいかなものかと考えていた。現在の桃山中学校の敷地に、統合校舎を含めて、全部おさまるとのことだが、そこを確認したい。

答 統合時点での小学校の法の基準を満たす必要面積は、2万3299平方メートル、中学校は2万4059平方メートル。合わせて、4万7358平方メートル。現在の桃山中学校の敷地面積は7万1078平方メートル。十分満たせる面積と なっています。
問 小中一貫に向けてのこ

れまでの流れ、今教育委員会内部で抱えている課題はあるのか。問題点はあるのか。

答 小中一貫につきましては、全国で1130校で取り組んでいる。その中のいろいろ取り組みの情報なりデータ等をいただいている。取り組む大きな理由としては、学習指導の成果を上げたい。もう一つは不登校など生徒指導上の成果を上げることです。また、茨城県の場合は小中学校の先生は両方の免許を取りなさいということで一応努力義務を課しております。

問 小中学校適正配置推進事業の設計委託料2593万円だが、これらすべて事業が進んだ場合、借入金の償還は。また現在に対する増分は。
答 もろもろの事業に対し現在の償還に対しての増分は平成26年度の元利償還金が約14億7000万円、その借入を行い2億4000万円弱の償還金増加、事業を計画通りに行くと平成33年が一番のピークになりその後は緩やかに減少する見込みです。